

## 令和6年度第1回伝国の杜運営協議会議事録

○ 日時 令和6年9月3日（火）午後3時～午後5時

○ 場所 伝国の杜 小会議室

○出席者

（委員） 8名

井家 勝己 金子 聡彦 新井 千香代 山田 彩起子  
近藤 里美 永井 学 高野 正雄 山村 洋子

（事務局） 9名

曾根 伸之（理事長兼博物館長） 渡部 洋己（常務理事兼事務局長）  
花田 美穂（学芸担当主査） 阿部 哲人（主査(学芸員)） 安部 理絵（主査）  
寒河江 大輔（総務担当主査） 小松 史織（主事） 宮本 詩織（主事）

### 1 開会

### 2 理事長あいさつ

6月に博物館館長と兼任で理事長を拝命した。

H13年に伝国の杜が開館し、まもなく四半世紀だが、コロナ渦という前代未聞の状況下においても粘り強く取り組みを続けてきた。しかし、社会情勢や私達の生活を取り巻く環境は変容を感じられる。コロナ前ほどの十分な回復傾向であるとは言い難く、既に終えた特別展「上杉茂憲」と企画展「KAGAYA 星空の世界展」の入館者数は、それぞれ12,129人、12,572人といずれも目標の8割強であった。

また、「上杉茂憲展」では登録有形文化財の上杉伯爵邸とのコラボ、「KAGAYA展」では米沢市児童会館のプラネタリウムとの連携企画など、多様な企画を行った。

今後とも、観光振興や地域の活性化にも寄与してやがてそれが文化の振興へと再投資され、文化資源の保存、活用維持するという好循環を目指し、同時に収蔵資料の価値、企画展示、自主事業の特性を引き立てていく為に、多くの皆様の力お借りしてご指導を仰ぎながら創意工夫を図っていきたい。

市民の利用と来館者の増加に向けて、それぞれの見識、切り口からご意見いただけたらと思う。

### 3 会長あいさつ

今回皆様には伝国の杜の魅力をさらに高め、多くの方に利用していただくために、様々なご意見をいただきたい。

#### 4 報告

- (1) 令和5年度の事業報告及び事業評価の結果  
概略について事務局から説明
- (2) 令和6年度事業計画及び事業評価の指標  
概略について事務局から説明

#### 5 意見交換

- (1) 博物館・ホールの市民の利用を増やすには（案）
  - (委員) 米沢興譲館高校が令和8年に創立140周年を迎えるにあたり、夏休みに博物館の学芸員に助言指導を受けながら職員7名、生徒25名で資料の整理を行った。この経験を通じて、生徒は愛校心を育めたように感じる。  
博物館のスペシャリストとの身近な交流は、生徒達が職業の専門性を学ぶ非常に有意義な機会になり、博物館への興味関心が高まったと思う。こうした活動も博物館の利用の増加につながるのではないか。
  - (委員) 博物館の学芸員には図工の授業、バックヤード見学、出前授業などを行っていただいて、小学校としてとても感謝している。  
後藤克芳などの、まだあまり知られていない本市出身の芸術家の展覧会をこれからも続けて欲しい。先生自身が、知らない地域の文化を知る機会にもなっており、学校でも、芸術に触れる機会をもっと増やしたいと考えているので今後も協力をお願いしたい。  
山形県立博物館などは、縄文時代の資料や考古学的内容などを取り扱っているのに対し、上杉博物館では上杉氏米沢入部以降を主に取り扱っており、埋蔵文化財は別なところに収蔵展示されているが、博物館で一緒に展示はしないのはなぜか。
  - (事務局) 歴史の展示では時系列で収蔵品を展示する通史展示が主流だが、当館では、常設展は時間軸に沿わず、重要なトピックスをまとめて紹介するテーマ展示を採用しており、米沢や置賜3市5町の特徴を知ってもらうような構成としている。
  - (委員) 上杉博物館は展示の解説が詳しく、他の博物館より素晴らしいと思う。しかし、事業の評価を見ると、外部の評価は高い評価でも職員は厳しい評価をしていると感じた。  
来館者を増やすためには子どもの興味を引く必要がある。行ってみると楽しいと思ってもらえる取組を増やしていったらどうか。例え

ば、授業やクラブ活動で参加する機会を作り、そこで興味を引いてはどうか。そのためにX（旧 Twitter）での発信や、ワークショップやチルドレンキュレーターズなどで子どもが大人に解説する機会があるといいのではないか。

ミュージアムショップのグッズとして市内の木工製品を製作する事業所とコラボした商品や上杉本洛中洛外図屏風のシールを作ってはどうか。

（事務局）チルドレンキュレーターズは小学4年生から大学生まで12人が所属しており、毎年テーマを設定して活動している。

今年のテーマは、11月の椿貞雄展に展示するための展示資料の調査としており、主に収蔵庫で活動を行っている。

小学4年生から大学生まで続ける人も多いが、常設展でお客様に資料の解説をする、というのは現体制では難しい。

体験してくれている子ども達にとっては、通常は知らない博物館の裏側を見学したり、学芸員の仕事を手伝う事等で、キャリア教育や今後の彼らの人生の一部としての経験になっているのではないか。

（委員）他施設での公演に行った際に、トイレや物販コーナーが混み合わないようアナウンスなどで誘導しており感心した。また、別の施設では、案内人が笑顔で積極的に接しており、とても快適に感じたので参考にしてはどうか。

能舞台に上がった経験がとても良かった。特別な体験は魅力になるので、能舞台の体験ツアーを設けてはどうか。また、市内の施設同士で連携して観光コースを作り、一枚のパンフレットにまとめて道の駅に設置してみたらどうか。

資料3の総括表に図書館、市民ギャラリーも含まれているのはなぜか。

（事務局）上杉文化振興財団は、博物館とホールの他に座の文化伝承館や図書館、ギャラリーの指定管理、業務委託を受けており、この評価表は財団全体の事業の評価を示しているため、図書館やギャラリーなどについても記載しているものである。

（委員）普段博物館に足を運ばない知人にヒアリングした所、博物館に行かないのは元々興味がない場合が多く、興味のない人を呼び込むのは難しいと思う。ただ、今回、博物館に興味がないと言っていた人がホームページを見てKAGAYA展を見に行ったという話を聞いたので、展示企画を広くPRしていくことが必要だと思う。

伝国の杜ファンクラブを知らない人が多いほか、4月でないとい入会出来ないと思っている人がいるので、10月からは年会費が半額になるなど、もっとファンクラブの宣伝を行えば良いのではないかと。ファンクラブの年会費や入館料は安いと思うので、もっと値上げしてもよいのではないかと。

アンケート集計を見るとリピートの方が多いので新規の方を呼び込むより、繰り返し来館される方を狙ってファンクラブ入会を勧めてはどうか。

また、学生の場合は図書カードによる入館割引があることも周知してはどうか。

(事務局) ファンクラブは一年中入会を受け付けているが、3月は「早割」、10月からは「半期割」が適用になるので、この時期を中心にPRを行ってきたため、今後はもう少し幅広くPRを行っていききたい。会費もサービスを充実させながら料金の引き上げを検討したが、市との兼ね合いがあるので調整する必要がある。特別展の料金は、今年度から700円から800円に引き上げているが、まだ安価であると思っており、こちらも市と調整しながら検討していききたい。

(委員) 博物館の学芸員には、日本史の授業や学芸員志望の学生の実習で大変お世話になっている。地元の方に来ていただくことも重要だが、アンケートに着目すると、「浮世絵」などの展示は県内者が多いのに対し、「上杉景勝と関ヶ原合戦」、「上杉家文書」、「上杉茂憲」は、県外者が多いことから、展覧会に上杉というワードが付いていると興味を持っていただけるのではないかと。市の観光課と連携してもっと宣伝していけないかと。

(事務局) 「上杉茂憲展」で行ったゲーム「刀剣乱舞」とのコラボ企画は、県外者にも大変反響があったので、そういった視点からも着想を得たいと考えている。

(委員) 博物館が開館した頃から携わらせて頂いているが、このような会議の場を重ね、常設展と企画展の質が上がったように感じる。県外から来館する方は歴史を学びたくて見に来ている場合が多い。歴史に関心のある方は着眼点が違うので、そう言った知人にも企画展のチラシなどを渡して来館を勧めている。県内それぞれの博物館ごとに特徴があって良いと思う。上杉博物館は、上杉関連の強みを生かして特化していくのが良いと思う。

また、企画展の入口に担当者の想いや企画のポイントなどを掲示すると面白いのではないか。

(委員) 道の駅よねざわでは、まちナビカードを設置して市内への誘客を図っている。

上杉文化エリア懇話会で情報共有しながら、より良い取り組みを行っていくための話し合いをすることが大事だと思う。

最近インバウンドで台湾からの観光客が多く見られるが、博物館では海外からの利用者への対応はどのようにしているか。

(事務局) この上杉文化エリア周辺にも台湾のお客様が訪れているが、博物館への来館者は少ない。当館でも、中国語での案内は難しいため、おしよしなガイドで対応していただけたらぜひお願いしたい。

博物館内の多言語での案内はまだ課題があるので、今後取り組んでいきたい。

## (2) その他

(委員) 伝国の杜ファンクラブのコアな年代は何歳くらいか。

(事務局) 大体定年後の60代くらいで時間に余裕がある方が多いようである。

## 6 その他

(事務局) 委員の皆様には展示やホール事業の評価をお願いしたいので、ご協力をお願いしたい。

(館長) 本日は、お忙しいところ貴重なご意見ありがとうございました。特定の世代だけでなく、広い世代から愛される博物館を目指して様々な工夫を凝らし、本日いただいたご意見を参考にしながらまちづくりの一環としての博物館を目指して発信していきたい。

以上